

---

# バカと居眠りとAクラス

nature

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと居眠りとAクラス

### 【Zコード】

N7700Y

### 【作者名】

nature

### 【あらすじ】

学園居眠り時間歴代最高記録を1年で塗り替えた男「緑野 魁人」。

。 その男がなんで学年次席？！

幼馴染の佐藤美穂、親友の明久、雄一らと繰り広げる学園ラブコメディー！

どうぞお楽しみ下さい！……楽しませられるかなあww

Aクラス中心でやってくつもりなのでFクラスはあまりだせないかも…。

初投稿なので変かもしだれませんがよろしくです！  
作者は受験生なので更新は不定期です。  
加えて作者の自己満小説になる可能性があります。  
嫌だ！つて人はお戻り下さい。。

## ♪♪♪（前書き）

はじめまして。naturieです。

初投稿になります。どうぞよろしくお願いします。

## ふるわーぐ。

春。　　ここ文月学園ではクラス発表が行われていた。

「ふわあ～。…眠いなあ…。」

万年居眠り男「緑野 魁人」は大欠伸をしながら学園内を歩いていく。

「…先生を無視してどこへ行く。自分のクラスが知りたくないのか？」

生徒から「鉄人」と呼ばれ恐れられる補修教師、西村が血管を浮き上がらせながら言つ。

「…おはようつす。」

「明らかに嫌な顔をするな。ほら、振り分け試験の結果だ。」

魁人は封筒を受け取り、空けようとする。

「実は、先生はお前を1年間見てきて「こいつは吉井と並ぶFクラス候補なんじやないか？」

と思っていた。授業は居眠りテストも真面目に受けてなかつたらな。」

やつと封筒を開け終わり中身を見る。

「緑野 魁人 Aクラス 次席」

「どうやら先生が間違っていたらしい。すまなかつたな。」

「いや、悪いのは俺の生活態度ですから。謝んなくていいですよ。  
じゃ、俺行きますね。」

「ああ。出来れば居眠りはもつやめろよ」「無理っす。」…即答か。

「じゃ、残り頑張つて下さー。」

そう言って魁人は昇降口へ向かった。

これから魁人のAクラスでの学園生活が始まる・・・。

## ふるわーぐ（後書き）

記入していますが、更新は不定期です。  
ご了承下さい。

## 主人公紹介！

名前 緑野 魁人（みどりの かいと）

性別 男

身長 175cm

体重 62kg

見た目 顔は中性的。つてかどっちかというと女子。だがなぜか女子に見られることはない。

髪は愛子を少し長くした感じの茶髪。

体型はちょっとやせてるかな？ぐらい。

性格 基本優しい。でも眠気によつて機嫌が悪くなつていく。眠いときに誰かに寝るのを邪魔されるとブチ切れる。友達や弱い人をいじめる奴は大嫌い。そのときもブチ切れる。また、かなり面倒くさがり。でもやる時はやる。やつていいことと悪いことの区別をしつかりつけていく。

得意教科 数学（真面目にやれば1年の時毎回余裕で1位をとれた  
ぐらい）

苦手教科 英語（勉強する意味がないと感じているから）

召喚獣 そのまま小さくした感じ。

服は剣道の胴着、袴。

武器は竹刀。特別な効果があり、

基本どこを打つてもダメージは低いが、

面、小手、胴、突きの位置（頭、両手、腹、喉）を的確に

打つと

相手の元々の点数の半分のダメージを与える。つまり、2回的確に打つたら相手は補習行き。

腕輪 もう決めてあります、秘密です。

A対Fが終わつた辺りで更新するつもりです。

その他 中学まで剣道をやっていた。同じく中学で剣道をやつていた（という設定）の須川と知り合い。何回か試合をしたこともある。

しかし、足に重大な怪我をしたため、

今は文月の剣道部のコーチを気が向いたらしている。

美穂とは保育園からの付き合い。

明久は小学校、雄一は中学校で出会つた。

雄一と初めて会つたときに…？

自分以外への恋心には敏感だが、自分がもてると思つていないため、

自分に関してはかなり鈍感。

1人暮らしのため家事は大体できる。

どうせ食うならうまいものが食べたい、という理由で料理は異常にうまい。

居眠り時間学園歴代最長記録をもつてゐるが、頻繁に更新されるので、

正確な記録はわからない。

## 第1話 設備で重視する「」。

「そういうえば、あいつは『』のクラスになつたかな……」

魁人はAクラスへあるきながらそう呟いた。

「おっ、ここか…でかいな。」

入つたAクラスには教育施設とは呼べないくらいの設備が揃つていた。

リクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコン etc

…。

「あつ、魁人くん！」

誰かが魁人に気づいたらしく、走つて駆け寄つてきた。

「ん？ お、美穂か。お前もAクラスに入れたんだな。」

走つてきたのは先ほどの「あいつ」こと幼馴染の「佐藤 美穂」だつた。

「はい。魁人くんと同じクラスになりたくて、頑張つて勉強しましたから…。」

「へえ～、そいつは殊勝なこつたな。ま、1年よろしくな。」

魁人は前半部分の意味を理解していないうでそう答えると、

「はい…。そういうえば、この教室って大きいですね…。」

少ししおげでいる美穂は教室を見渡しつつ、いつ言った。

「ああ、そうだな。」

普通の人ならばここで「勉強しやすそう」とか「快適そうだよな」とか言いそ่งだが、それに対して魁人は

「寝やすそうだ。」

「…教室に関しての感想がそれですか…。」

学園居眠り時間歴代最高記録男はそう答えた。

てつ経し少かられそ

「皆さく、席について下れ。」

クラス担当の高橋が教室に入り、そう告げる。

「ん？ 時間か。」

そうは言つても席に座つて話していたので動くことは無い。

ちなみに魁人は偶然席が近かつた美穂と話していた。

「そうみたいですね…。」

「では、自己紹介をしようと思います。廊下側の人からお願ひします。」

「あつちからか…。」

ちなみに魁人の席は窓側から2番目なので、結構後半の方になる。

「…自分の番まで寝てるから、順番が来たら起こしてくれるか？」

「はあ…、仕方ないですね。」

魁人は美穂にそう告げ、3秒で寝る。

「…人くん。魁人くん。次ですよ。」

「…ん？ そうか。ありがとうございます。」

魁人は寝ぼけ眼をこすりながら笑顔でそう言つ。

「いえ…／＼。」

美穂は少し顔を赤くし、前を向く。

美穂の席は魁人の右隣である。

「さて…、俺の番か。まあ、対して特別なこともないが…。」

前の人気が終わり、魁人は立ち上がる。

「俺は緑野 魁人。好きなことは寝ることだな。1年間よろしく。」

「

魁人はそう皆に告げるとすぐ席に座る。

「俺の番も終わつたし、また寝るか…。」

そうしてまた魁人は眠りについた。

「…何であいつが…？」

クラスメート達がそう呟き始めた頃にはもう寝息を立てていた。

## 第1話 設備で重視するJRP。（後書き）

いきなり「メント」がきて驚きました…。

餓鬼さん、本当にありがとうございました！

感想など書いて頂けると作者は気が狂う程喜びます。

今回見て下せつた皆様、出来れば次回も読んで頂けるとありがたいです。

感想、アドバイスなどお待ちしています。

では、読んでいただき、ありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7700y/>

---

バカと居眠りとAクラス

2011年11月23日21時57分発行